「日本語話し言葉コーパス(CSJ)音声データの音声的・言語的特徴考察」

学籍番号：2J19F508-7

氏名：川崎咲希

　日本語話し言葉コーパス(CSJ)の音声データを聴収し、考察した内容を纏める。わたしは音声言語および対話に関心を持っているため、話者の声の特徴と話し方に着目して聴収を行った。

まず、学会講演(女) 【A01F0034】のデータから以下の点が見受けられた。

　・話始めの声が大きい

　・声の震えがあり、息を吐く音、唾をのむ音が度々含まれる

　・「あの、」「あ、」「えー」「えーと」といった間を繋ぐ言葉

　・話すスピードが段々と早く（スムーズに）なっていた

　話始めの声の大きさと声の震えから、緊張している様子が想像できた。話すスピードが段々と速くなっていることは慣れの影響と思われたが、学会講演(女)【A01F0067】では、話始めに比べ後半の方がゆったりと話しているように感じた。緊張が取れて余裕が表れていること、時間配分を考慮した話し方である可能性も考えられた。【A01F0034】【A01F0067】の話者は共に「あの、」「あ、」「えー」といった間を繋ぐ言葉を度々使用しており、原稿を読み上げていないと感じた。一方、【A01F0122】は話し方に抑揚が無く原稿から目を離さず読み上げているように聞こえた。また話すスピードも始めから後半まで単調であった。

学会講演(男)についても【A01M0020】は抑揚の無い話し方であり、原稿を読み上げていることが想像できた。また【A01M0187】も「以下の項目より…」といった文面特有の表現や、項目番号を「１（いち）」と読み上げていることから原稿内容をそのまま語っていることがわかる。また、話し方もスムーズで単調である。対して【A01M0021】は話始めに「えーっと」「えっと」といった間を繋ぐ言葉を使い、語尾を伸ばした話し方をしていた。これは、沈黙する時間を減らそうとするねらいがあり聞き手を意識した話し方ではないかと思われた。

次に、模擬講演(女)【S00F0014】について以下の点が見受けられた。

・「えー」「あのー」といった間を繋ぐ言葉

・「ほんっとうに」「ほんとに」といった感情を込めた表現

・「っていうのでしょうか」「～だなあと感じました」といった口語表現

・語尾を度々「～ですね」としている

語尾を「～ですね」とする呼びかけの表現は模擬講演(女)【S00F0031】や模擬講演(男)【S00M0025】【S00M0053】でもみられ、模擬講演における特徴と思われた。模擬講演のテーマは話者個人のエピソードであったことから、日常会話と同様に聞き手の存在が強く意識され共感を促すような表現がなされたのではないかと考えた。【S00M0025】は、ひとつのエピソードを語った後に少しの間をおいており、聞き手の反応をみているのではないかと思われた。また【S00M0053】では語尾に笑いや、息を吐く音が度々含まれており、これらも聞き手の存在を意識した話し方とみられる。

　また、感情を込めた表現が用いられることも模擬講演における特徴と考えた。【S00F0031】も「大好き」といった口語的な強調表現を使っている。

今回聴収した学会講演のデータにおいては、声の震えや話のテンポから話者の緊張や自発性を示す音声的特徴が見受けられた。模擬講演のデータにおいては、話者の感情を示す表現や聞き手の感情を伺う様子を示す言語的特徴がみられた。両者の共通事項として、「えー」といった間を繋ぐ言葉が使われているが、音声の自発性が高いほど間を繋ぐ言葉が用いられる頻度も高いと思われた。